

熱帯林造成基金活動報告（ミャンマー）

JIFPROでは皆様から熱帯林造成のためのご寄付をいただき「熱帯林造成基金」を作って、毎年、植林を行っています。ミャンマーでは1997年から植林を行っており、2017年度からは中央乾燥地であるニャンウ郡ラトケ・テランカン地域で植林を行っています。2019年度は24haの植林を行いました。植えた樹種はユーカリプタス・カマルドレンシス、アカシア・カテチュー、ハミルトンチーク、ステルクリアの4種類です。

今年は乾季が長引き、植樹時期が遅れましたが、8月末ごろには無事に新規植え付けを終えることができました。ただ、雨が少なく、水とエサ不足のためか、ステルクリアは野ネズミ・野ウサギによる食害を受けてしまいました。枯死してしまった苗は取り除き、新しい苗で植え替えを行っています。雨季が始まり、植林木はすくすくと成長していますが、同時に植林木の周りの雑草も成長しますので、10月にそれら雑草を取り除く下草刈を行いました。



2017年に植林したユーカリ造林地（植栽後2年経過）



森林官による植樹研修

なお、この事業は住民参加型の林業「コミュニティフォレストリー」を採用しており、地域住民が主体的に森林の管理ができるように現場の森林官（ミャンマーの森林局で現場管理を担当している者）が植林地のラトケ・テランカン両村の村人に対して森林保全の意義や植樹についての実践的な知識、植樹後の管理方法などについての研修を行っています。

ニュースレター創刊号の発行について

国際緑化推進センター（JIFPRO）の活動を広く皆様にお知らせするために「JIFPRO newsletter」を発行することになりました。JIFPROには「緑の地球」という情報誌があり、センターの活動や国際林業協力に関する情報を広くご紹介していましたが、様々な事情があり平成27年6月に発行した111号からしばらくお休みをいただいています。

今回発行するニュースレターは情報をお届けする方々の範囲を「JIFPRO及び熱帯林造成にご支援いただいている方々」とし、3か月に1度、年4回（2月、5月、8月、11月）、熱帯林造成基金の活動報告を中心に現在JIFPROが行っている様々な活動をタイムリーにお知らせするつもりです。

なお、創刊号についてはご支援いただいている皆様に直接お届けし、その後は希望する方に限定してお届けする予定です。本ニュースレターを通じて、JIFPRO及び熱帯林造成への支援が更に広がることを願っています。

イベント案内

<フォレストカーボンセミナー：COP25等報告会の開催>

12月2日～13日まで、スペインのマドリードで国連気候変動枠組条約（UNFCCC）における締約国会議（COP）が開催されます。JIFPROでは、この会議に参加した林野庁の担当者から森林分野における今年のトピックや今後の方向性などについて報告していただく「フォレストカーボンセミナー：COP25等報告会」を開催します。

- ・日時：2019年12月26日（木） 10時～
- ・場所：文京区シビックセンター
- ・参加費：無料

イベント詳細や申し込み方法については、JIFPROウェブサイトやメール等で改めてご案内いたします。イベントについてのお問い合わせは、国際緑化推進センター藤村までご連絡ください。（連絡先は裏面参照）

イベントでエチオピアコーヒーを紹介

JIFPROが受託しているJICA「REDD+及び付加価値型森林コーヒー生産・販売を通じた持続的な森林管理支援プロジェクト」の一環として、アジア最大のスペシャルティコーヒーイベントSCAJ 2019でブースの出展およびセミナーを開催し、エチオピア森林コーヒーの魅力を紹介しました。

コーヒー原産国であるエチオピアでは、生産量の1割を森林コーヒー（森林内に自生する野生のコーヒー）が占めると言われます。独特な風味が



伝統的なコーヒーセレモニー

ありますが、国際的にはその希少性や価値がまだ認知されていません。イベントではコーヒーセレモニーの実演・試飲や、森林コーヒーが森林保全につながる仕組みについて紹介しました。

JIFPROへのご支援のお願い

JIFPROでは皆様からご支援をいただき様々な活動を行っています。その「支援」として以下の三通りがあります。それぞれのご支援はJIFPROの活動を支えるために非常に重要なものであり、大切にさせていただきたくことをお約束します。

種別	支援対象	回数	金額
賛助会費	JIFPRO活動全般	継続	定額
一般寄付	JIFPRO活動全般	一回から／継続	任意
熱帯林造成寄付	熱帯林造成活動	一回から／継続	任意

今年度は、皆様から下記の通りご支援いただいております。厚くお礼申し上げます。（11月13日現在）

「賛助会費」：約57万円

「一般寄付」：約12万円

「熱帯林造成寄付」：約696万円



TICAD7サイドイベントにて活動紹介

8月に横浜で開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD7）において、ITTO、林野庁、JICA共催によるサイドイベントが行われました。この中でJIFPROと一緒にタンザニアで活動しているヤマハ株式会社の方がプロジェクト概要を発表しました。

ヤマハは木管楽器（クラリネット、オーボエ）の原材料として希少材のアフリカン・ブラックウッドをタンザニアから輸入していますが、資源の減少が問題でした。そこで、このプロジェクトでは、ブラックウッドの生育する森林の保全管理と地域住民の生計向上の実現を目指したビジネスモデルを構築しました。こうした本業を通じた環境保全は、企業によるSDGsへの貢献の好例として注目を集めています。JIFPROは、森林保全や森林再生に関する技術的な支援を行っています。



発表するヤマハ（株）の仲井一志氏（ITTOのHPより）

寄付方法拡充について

これまで、JIFPROでは賛助会費・寄付金についての窓口を銀行口座しか持っておらず、長くお付き合いいただいている方を除き、なかなか多くの方に活動を知っていただき支援していただくきっかけを作ることが難しい状況でした。

この度JIFPROでは、私たちの活動をより身近に感じていただくとともに寄付までの手続きを簡便化するため、寄付に関するいくつかのサービスの利用を開始しました。今回はその中からSyncableのサービスをご紹介します。SyncableはNPOなどの団体とそれを支援したい人とをつなぐプラットフォームで、このサイトを通じてクレジットカードから寄付を行うことができます。4月より利用を開始し、すでにたくさんの方からご支援をいただいております。ぜひ一度下記ページをご覧ください。

Syncable/JIFPROの団体ページ
<https://syncable.biz/associate/jifpro/>

